

2020（令和2）年度 学校マネジメントシート
三重県立上野高等学校（全日制）

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		1 生徒が学びがいを実感する学校 2 保護者・地域が頼りがいを実感する学校 3 教職員が働きがいを実感する学校
(2)	育みたい 児童生徒像	1 挨拶を大切にする生徒 2 気づきを大切にする生徒 3 命を大切にする生徒
	ありたい 教職員像	1 自由闊達な職場風土の中で協働と研修を通して職能成長を図る教職員 2 生徒の成長に使命と情熱を感じる真の教育専門職を目指す教職員

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	○生徒：学力の向上と進路希望の実現、勉学と部活動の両立 ○保護者：国公立大学への進学を中心とする進路希望の実現、充実した学校生活 ○卒業生・地域住民：地域の伝統的な進学校・中心校としての役割、文武両道にわたる活躍と実績 ○大学：学力と意欲の高い生徒の育成	
(2) 連携する相手と連携するうえで の要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	○PTA：進路希望実現、健全育成、学校情報の発信・提供 ○地域住民：情報発信と地域貢献 ○小中学校：地域の子どもたちを共に育てるとの観点に立った連携・交流 ○地域の関係機関：地域人材の輩出	○PTA：教育活動・教育環境充実のための理解・協力 ○地域住民：教育活動への理解・協力 ○小中学校：指導上必要な情報提供等 ○地域の関係機関：キャリア教育充実のための協働態勢
(3) 前年度の学校関係者評価等	○理数科は国公立大学や難関私立大学への進路希望を実現できる進学に特化した学科として期待されている。より高い進路希望を持ちそれを実現していくような人材を育てる学科であってほしい。 ○伊賀地域から上野高校に進学を希望する生徒の多くは進学が叶った時点で満足してしまっている。高校入学は通過点であり、これからの将来を見据えた更なるキャリア目標を立てて取り組ませる必要がある。地元小中学校の課題でもあるので、連携した取組を進めて欲しい。 ○自らが伊賀地域の発展を考えプロデュースする普通科の「みらい探究F」や、理数科の「みらい探究R・課題研究」等の学習活動は、探究的な学びとして評価できる。その成果をもっと校外にアピールして生徒の更なる向上心を喚起してほしい。	

(4) 現状と課題	教育活動	<p>○伊賀地域の中学生の減少に加え、名張市から津市や他府県の高校への進学者が増加傾向にあることから、多様な生徒が本校に入学するようになってきている。習熟度別少人数指導や土曜講座等を実施するとともに、ホームルーム担任による個別面談の充実を図るなどして、個に応じたきめ細かな指導の充実を図る必要がある。</p> <p>○生徒・保護者の80%以上が国公立大学への進学を希望しているが、合格者は生徒の約30%である。どのような学習指導・進路指導が効果的かを研究し、その成果を学校全体で共有するとともに、進学指導体制の充実と進学実績の向上を図る必要がある。</p> <p>○スーパーサイエンスハイスクール（SSH）の取組を推進します。</p> <p>○人権尊重の態度を身に付けた心豊かな人間形成を目指し、ホームルーム活動を中心に人権教育を実施しているが、一昨年度、障がい者を蔑む用語の不適切な使用が発覚した。人権意識を高め、いじめや差別を見抜き、なくそうとする意欲と実践力を身に付けた生徒を育成する必要がある。</p> <p>○本校には文武両道の伝統があり、生徒・保護者も学習活動とともに部活動の充実を期待している。「進学校」としての役割を果たしつつ、運動や芸術文化活動に関する特別活動・部活動の充実に向け、知・徳・体のバランスのとれた生徒の育成を推進する必要がある。</p>
	学校運営等	<p>○本校の教育活動の現状や成果が保護者、中学校関係者、地域等に未だ十分に伝わっていない。ホームページを充実させ、学校説明会や授業公開の在り方を工夫するとともに、学校行事を公開するなどして「開かれた学校づくり」を一層進める必要がある。</p> <p>○改正給特法による国の指針に基づき、県は条例を改正して教職員の勤務時間について、年360時間、月45時間を超えないことと定めた。一方、勤務時間外の業務や部活動指等、依然過重労働に陥っている職員や放課後の会議等で多忙感を持つ職員も多い。65分5限授業や探究的な学習活動に取り組みながら、職員間の連携・協働と効率的な学校運営等を一層促進し、過重労働緩和・総勤務時間縮減に向けた取組を積極的に進める必要がある。</p>

3 中長期的な重点目標

教育活動	<p>1 目指す学校像「生徒が学びがいを実感する学校」を実現するための重点目標</p> <p>「全教職員による共通理解の下、生徒の『自己指導能力』（その時、その場で、何をすべきで、何をすべきでないかを自ら考え、判断し、行動する能力）を向上させる共通実践を継続することにより、生徒一人ひとりが自律的な学習習慣と生活態度を確立して進路希望を実現し、さまざまな教育活動に主体的・協働的な態度で取り組み、他者と共生する力を身に付けている。」という状態を重点目標とする。</p>
学校運営等	<p>2 目指す学校像「保護者・地域が頼りがいを実感する学校」を実現するための重点目標</p> <p>「探究活動に力を入れた教育活動の推進、学校情報の積極的な提供・発信、学校関係者評価委員会・人権教育推進協議会の活性化、適切迅速な対応等により、保護者・地域の満足と信頼を安定的に確保しており、その結果、本校への入学を希望する中学生とその保護者が増加する傾向にある。」という状態を重点目標とする。</p> <p>3 目指す学校像「教職員が働きがいを実感する学校」を実現するための重点目標</p> <p>「活気のある明るい組織風土の中で教育活動・学校運営を継続的に改善するための仕組みや教職員間・校内組織間のチームワークが適切に機能するとともに、過重労働緩和・総勤務時間縮減に関する取組が適切に講じられており、大多数の教職員が本校で勤務することに満足している。」という状態を重点目標とする。</p>

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
◆アクションプラン1：全校体制で授業研究に取り組み、学習指導に関する指導力の向上を図ります。			
学習指導	活動指標	○教科横断的グループによる研究授業・授業評価の実施 ○生徒による授業評価年2回実施	○教科横断的グループによる研究授業・授業評価を年1回実施し、全体での共有を図った。 ○生徒による授業評価を12月に実施。
	成果指標	○生徒の授業満足度（「とても満足」と「満足」の計、以下同じ） 85%以上	○生徒の授業満足度（「とても満足」と「満足」の計、以下同じ）は89%
改善課題			
9月以降、学校の日課が通常に戻るにつれて授業研究に取り組む時間も増加した。グループワークが制限される中で、指導方法やICTの活用について研究を行った。生徒の満足度や学力の向上につながった授業要素や学びの形態について具体的に明らかにして、カリキュラムマネジメントに生かす取組が必要である。			

項目	取組内容・指標	結果	備考
◆アクションプラン2：生徒が自己の進路希望を実現できるようキャリア教育の充実を図ります。			
キャリア教育(進路指導)	活動指標	○SSHの事業である「上高みらい探究プログラム」と連携し、「進学型キャリア教育」や「進学型インターンシップ」を系統的に実施する	○伊賀市いがびと育成事業2期目指定SSH事業と合わせ2月8日みらいプロジェクト発表会実施 ・一日看護師体験、一日医師体験、三重大学体験は中止
	成果指標	○「総合的な学習の時間」の授業満足度80%以上 ○国公立大学合格者数、第三学年生徒の25%以上	○みらい探究 2年目 総合満足度(満足+やや満足) 1年生みらい探究R 89.7% 同F 94.7% 2年生みらい探究R 94.3% 同F 81.9%
改善課題			
1年：フィールドワークは身近な生活から課題意識をもってテーマを設定し、積極的に取り組むことができる。ポスターセッションでは、質問力を一層向上させ、内容を深める力を鍛えることが課題である。 2年：先行研究を踏まえること、SDGsの17の目標をとらえること、ICTを活用したプレゼン力は大きく向上した。人に伝えるプレゼン力を一層鍛える必要がある。 3年：2年生の取組を小論文として形にし、自己評価につながるものとなるよう取り組む。			

項目	取組内容・指標	結果	備考
◆アクションプラン3：スーパーサイエンスハイスクール（SSH）の取組を推進します。			
SSH 理数科	活動指標	○探究的な内容を含んだ授業を各科目の70%以上で実施 ○高大連携先の新規開拓と探究活動サポーターリストの作成 ○「みらい探究R」の授業運営方法の確立と体系的な指導体制の構築	○すべての専門科目で探究的な内容を含んだ授業を実施 ○本校卒業生や他校の課題研究経験者やSSH指定校との連携 ○SSH科目について、昨年度の内容をベースにブラッシュアップを図り、昨年度よりも体系的な指導体制が構築された。また、授業運営についても、昨年度の反省点を元に改善を行なった。
	成果指標	○生徒の各活動満足度90%以上	○12月の学習満足度アンケートの結果 理数科 1年生95% 2年生91% 普通科 1年生91% 2年生77%

改善課題	
<p>コロナ禍の中で、活動期間の短縮を余儀なくされたが、昨年度の経験を活かし、影響を最低限に押さえることができた。校外活動は大きく制限され、高大連携先の新規開拓は昨年度の2カ所より減少して1カ所であったが、ICT環境を活用したリモート活動は大きく進展し、今後さらに有効活用が課題である。</p> <p>成果指標については、昨年度よりも上昇が見られたが、みらい探究FⅡにおいて目標を達成することができなかった。満足度が上昇するように、考えていきたい。</p>	

項目	取組内容・指標	結果	備考
◆アクションプラン4：人権教育を積極的に推進します。			
人権教育	活動指標	<ul style="list-style-type: none"> ○人権学習LHRを各学年年1回以上公開 ○教職員の全体研修、小グループ研修をそれぞれ年2回以上実施 ○全教職員が年3回以上実施するフィールドワークに1回以上参加 ○生徒が主体的に取り組む小学6年生全員との人権交流会を年2校以上実施 	
	成果指標	<ul style="list-style-type: none"> ○1学年は11/11、2学年は11/18、3学年は9/30に実施し事後検討会を実施 ○全体研修は10/28と11/20に、小グループ研修は4～6月と2～3月に実施 ○フィールドワークは10/13、10/14、に実施し今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、転任・新任の方に限り参加 ○今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、中止 	
	○人権問題の解決に向け主体的に考え、実践できる生徒の増加	○人権サークルには、2年生3名に加え、1年生が3名参加。新型コロナウイルスによるイベントの中止では発表する機会が減少したが、文化祭では、発表内容を考え主体的に準備して発表することができた。	

改善課題	
<p>教職員・生徒にとって、人権問題をより「自分事」としていくための工夫や取り組みが必要である。</p> <p>昨年度末から新型コロナウイルスによる緊急事態宣言と休校措置により、事実上6月から開始した。休校期間中はもとより学校再開後、生徒は、心身ともに不安な学校生活を送ることになった。新型コロナウイルスという未知のものに対する不安と、もし感染してしまったらという周囲への不安が拡大し、社会的に差別事象も起きている。教職員・生徒ともに、人権課題を再確認し、新型コロナウイルスに関する差別の認識と安心して学校生活を送ることが出来るような取り組みが引き続き必要である。そのために「自分事」として捉え、様々な状況に置かれている立場の人がいることを理解した上で、発言・行動に努めていくことが大切だ。</p> <p>人権サークル部員の認識・意欲をさらに高めて周囲への発信を促す取り組みは意義があり、他校や地域との交流・フィールドワークなどを継続していく必要がある。</p> <p>教職員研修においては、アクティブラーニングの手法をとるなどより「自分事」とするための工夫が必要である。</p>	

項目	取組内容・指標	結果	備考
◆アクションプラン5：生徒理解を深め、生徒の自己指導能力を高める指導を推進します。			
生徒指導	活動指標	<ul style="list-style-type: none"> ○登校指導、着こなし指導等共通実践を年5回以上実施 ○保健講話またはメンタルヘルス講演会を各学年1回実施 ○支援を必要とする生徒に関する事例検討会を適宜実施 	
	成果指標	<ul style="list-style-type: none"> ○登校指導と合わせて年間を通じ着こなし指導を実施。いじめ防止キャンペーンを4月、11月の2回挨拶運動と合わせて実施し、生徒の自己指導能力を効果的に高めることができています。 ○特別支援委員会、SC、SADを交えアンケート集約をもとに個別のケースについて検討。 	
	○問題行動による特別指導件数を一層減少	○コロナ禍による休校等により指導件数は減少するものの、生徒の精神面のケアの必要性は増大。	
改善課題			
<p>コロナ禍での乗車マナーや、密にならない行動など学校生活内外のマナーの向上に取り組む必要がある。</p>			

(2) 学校運営等

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
◆アクションプラン6：学校情報を積極的に提供・発信し、広報活動を強化します。			
情報発信	活動指標	<ul style="list-style-type: none"> ○ホームページ掲載件数(更新履歴件数)年70件以上 ○学校の取組を各報道機関に通知する ○生徒主体の学校説明会(体験授業を含む)年2会開催 	◎
	成果指標	○令和3年後期選抜普通科・理数科合計入学志願倍率 1.1 倍以上	
改善課題			
臨時休業や、集会形式での行事の実施が困難ななか、ホームページや Google Classroom での情報発信の機会が大幅に増えた。今後もこの状況が続くと予想されるので、直接対面型とネット等を利用した情報共有のバランスを取る必要がある。			

項目	取組内容・指標	結果	備考
◆アクションプラン7：地域の発展に貢献します。			
地域貢献	活動指標	<ul style="list-style-type: none"> ○明治校舎 HAQUA ホール等でのイベント年3回以上開催 ○教科・部活動等による地域貢献活動計年 15 回以上実施 	◎
	成果指標	○マスコミ報道年3回以上	
改善課題			
学校の安全性を確保しながら、どこまでイベントや地域貢献活動が実施できるか、またマスコミに情報発信できるか判断が難しいところもあった。今後もガイドラインに沿った取組を、安全面を最優先に考えて実施する。			

項目	取組内容・指標	結果	備考
◆アクションプラン8：学校運営を継続的に改善する仕組みを整備するとともに、水曜日早帰り推奨デーの設定、週1回の部活動休養日の設定、学校組織として動き会議時間の最適化等を通じ、過重労働緩和・総勤務時間縮減を学校全体で進めます。			
職員満足度の向上	活動指標	<ul style="list-style-type: none"> ○定時退校日を月1日設定し、定時退校できた職員の割合 90% 以上(R1-87%) ○放課後に開催され 60 分以内に終了する会議の割合 80%以上 (R1-65%) ○部活動休養日を週1日設定し活動した部活動の割合 100% (R1-99%) 	◎
	成果指標	<ul style="list-style-type: none"> ○教職員満足度調査の学校満足度に関する項目で「概ね満足」以上と回答した教職員 75%以上 (H30-72%,R1 データなし) ○1人当たりの月平均時間外労働時間 30 時間以下の範囲内 	
		<ul style="list-style-type: none"> ○7,10,11,12,1 の各月の水曜日に設定し、定時退校できた教職員の割合は 56% ○行事計画に記載された 86 回の会議の 91%の会議が 60 分以内に終了 今年度新たに水曜日に会議を入れないこと、校舎見回り時間を勤務時間内に設定して居残り待ち時間を解消する取り組みを実施。 ○すべての部活動で週1日の休養日を設定した 100% 	
		○1人当たりの月平均時間外労働時間 19.2 時間	

	(H30一月平均 39.0 時間) ○月 45 時間を超える時間外労働の延べ人数 0 人 (R1-57 人削減) ○年 360 時間を超える時間外労働の人数 0 人 ○休暇取得を年 0.5 日増加 (R1-2.2 日増加)	○月 45 時間を超える時間外労働の延べ人数 R2 29 人 (R1 189 人、160 人の削減) ○年 360 時間を超える時間外労働の人数 12 人 ○休暇取得 1 人平均 17.2 日で 3.0 日減少	
改善課題			
水曜日に会議を入れないことや校舎見回り時間を勤務時間内に設定して居残り待ち時間を解消することなど、勤務時間の細部をマネジメントし、一層の意識の向上を図る。過重労働の大きな要因となっている土曜日曜日の部活動指導および教科指導準備について、県安全衛生管理規定の過重労働対策に基づいて削減を図って行く。部活動ガイドラインの運用は一定の理解を得られてきており、さらに計画的な部活動指導と複数顧問による分担をすすめる。			

5 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	<p>難関国公立・難関私立大学進学に特化した理数科の教育活動を一層充実させ、普通科との相乗効果により、より高い進路目標の実現に向けて切磋琢磨する人材の育成とカリキュラムの実現を図る。</p> <p>中学生のキャリアビジョンとの接続性を検証し、高校でのキャリア教育の成果を積極的に発信して国際舞台で活躍する人材の育成で引き続き地域貢献を果たす。</p> <p>地域の発展と地域課題に科学的にアプローチする SSH の教育プログラム開発に取り組んで、先導的な課題研究の実践に取り組む。</p>
---------------------	--

6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	クラスや講座レベルでの学習機会の確保はオンライン授業のノウハウや ICT 環境が整いつつあるなかで、ある程度可能な状況になってきた。今後は、自宅待機期間の学習スタイルなど、個々の生徒レベルでの上野高校としての学習機会の確保策について検討する必要がある。
学校運営についての改善策	理数科、SSH、情報の 3 つの係を整理し、それぞれに主担等を置くような形が望ましい。人員不足の状況が続いているので、中長期的な目標として、まずは理数科と SSH の役割分担を明確にするところから次年度は改善していきたい。